共に励まし　やわらぎて
梅花の道を　永久にいそしむ

梅花流秋田県五十周年記念奉讃大会にて

同門

平成１８年８月１０日
第　２５　号
発行　梅花流師範・詠範の会
会長　柴田弘一
題字　初代会長・故加藤信三師
編集者（広報部）　亀谷　隆道

梅花流師範・詠範の会事務局
五城目町　待月院　嶋森憲雄
電話（0188-52-9566）

お久しぶりです

秋田県梅花流師範・詠範の会　会長　柴田弘一

今年もまたたく間に半年が過ぎ、今冬の豪雪のことも記憶の隅に行ってしまった様な昨今でありますが、みなさまには日々いかがお過ごしでしょうか。

昨年は秋田県梅花流創立五十周年という記念すべき大会でありました。秋田県武道館を会場に開催され、盛大裡に大円成致しました。

物故者追悼法要の御導師をつとめられた大館市比内の全応寺住職、佐藤仁鳳老師は、今日まで梅花の輪を県内に広めようと歩んで来られた方々の代表として、矍鑠としたお姿でその任をつとめあげられ、感慨ひとしおの面持ちでありました。

その折、新たに作曲された「秋田県梅花講の歌」（作曲　佐藤公一郎）も発表され、作詞者の亀谷健樹老師も感激一杯で皆と合唱しておられました。

又、五十周年を記念しての「秋田県梅花流五十周年記念誌」が先ごろ発行されて、既にみなさまのお手元に届いてご覧いただいておると存じますが、五十年の歴史（あゆみ）を記録に留める必要を感じ、当会副会長の本間俊英師に編さんを一手におねがいし、宗務所梅花主事近藤俊貞師のご協力に依り出来上がったものであります。折々にひもといていただければ幸いに存じます。

ところで、去る五月三十一日、六月一日の両日梅花流全国奉詠大会が、札幌市月寒グリーンドームに於いて開催され、宗門出身のシンガーソングライター、南こうせつ氏作詞作曲による新曲「まごころに生きる」が発表され、参加者に大いなる感動を与えました。

私も新曲作製にたずさわらせていただいた一人として、新曲が沢山の方々に親しまれ、口ずさんでいただきたいものと願っております。

そして、これを縁として梅花の道を歩まれる方が一人でも増える事を念願しております。

梅花流詠讃歌新曲披露

『まごころに生きる』

～曲想明るくおおらかに～

作詞・作曲　南こうせつ

去る五月三十日の北海道大会において梅花流詠讃歌の新曲が発表されました。

曹洞宗が梅花流普及のため、たくさんの人に、若い人に詠讃歌を知って頂きたい、梅花流の仲間を広めたいということでフォーク歌手「南こうせつ」さんに新曲作成を依頼しました。

南さんは大分県の曹洞宗勝光寺に生まれ、昭和四十五年頃から「かぐや姫」というバンドを組んで「神田川」「赤ちょうちん」「妹」等のミリオンセラーを数多く発表し、日本のミュージックシーンにおいて大活躍されました。ソロ活動では深夜放送でのユニークなキャラクターと巧みな語り口が話題となり人気を博しました。

また、平和を愛する想いから昭和六十一年頃から「広島ピースコンサート」を始め、平成四年頃からは減少しつつある都会の緑の大切さをメッセージする《自然》とのふれあいコンサート「グリーンパラダイス」を開催、等々、活動は多方面に渡りアーティストとしてだけでなく一生活者として時代を見据え、平和と自然に根ざした活動を続けています。

宗門では新曲作成の依頼をするにあたり「まごころに生きる」のテーマをもとに、『無常・同事・利他』の教えをお話し、この曲が生まれました。

今までの御詠歌とはずいぶんと違う、軽やかな曲ですので寺院内に限らず様々な場面で口ずさんでいただき、この歌に込められた尊い仏教の教えを感じて頂きたいものです。

歌詞解説

無常のことわり

そよ吹く風に小鳥啼き　川の流れもささやくよ
季節の花はうつりゆき　愛しい人は今いずこ

そよ吹く風に誘われて小鳥たちがさえずる歌声に、川の流れのおだやかなひびきに、うつりゆく四季の花々にも世の無常を感じ取っていく生き方を表現した歌詞です。仏教の説く無常に目覚め、周りの情景や自分の人生をどのように見つめ、受けとめて生きていくのか。ことばとしておだやかなこの歌詞に、無常のことわりを感じとっていく姿勢を示しています。このことをいつも抱えて生活していきたいものです。

そして、その無常の世において、愛しい人へ思いを馳せるのです。亡き人への追慕の気持ち、離れてくらす人への思い、さらに近くにいる人に確認したくなることもあるでしょう。人それぞれ違う思いで唱えるでしょうが、逆に生死、古今、遠近をこえて、すべての人を愛おしむ気持ちを大事にして唱えるところに、この歌の広がりが生まれると思われます。

同事ということ

広がる海ははてしなく　全ての命はぐくむよ
人の心もおおらかに　互いを敬い信じ合おう

自分の生き方も他人の生き方も尊重し、自分を偽り犠牲にすることなく、他人を妨げ圧迫することなく、協調して同じ思いで行動していくこと。これが同事です。そのたとえとして、海に川などから入る水との関係があげられます。海は拒むことなく水を受け容れ、水は避けることなく海に入り込み、さまざまな生命を生みだし育てていきます。

梅花特派講習会に参加して

亀谷　敬

風かおる六月二十六日、比立内耕田寺様にて懐かしい顔ぶれの皆様に迎えられ、十教区梅花特派講習会に参加致しました。

始めてお教え頂く新曲は、今年五月北海道全国大会で発表になった『まごころに生きる』詞もやさしく、軽やかな曲で、講師先生は京都よりはるばるお出でになられた、吉川憲隆一級師範先生でございました。

お声朗々とすがやかに丁寧なご指導ぶり、一節ずつ区切ってお唱えくださり、特に詠題を唱えない新曲を坐行・立行と作法も詳しく、曲想も解りやすくご指導くださいました。

先生はご趣味が声楽の由、日本歌曲の『平城山』を美しいテノールでお聴かせ下さいました。

《人恋うは悲しきものと平城山に／もとおり来つつ堪え難かりき／いにしえも夫に恋いつつ越えしとう／平城山の路に涙おとしぬ》

受講生皆うっとりとして、特別な先生のご指導ぶりにリクエストすることを忘れたことはとても残念でした。

講習は、声の出し方から歌詞におよび、お釈迦様のお教えが説かれている歌詞についての説明から、日常の心のあり方について～布施・愛語・利行・同事～の四摂法の教えをわかりやすくご教示下さいました。

お唱えが下手でも、このような御詠歌講習会に参加しお話を聞くだけでも最高と悦びを感じ、信仰心が持てる事の大切さも教えられました。

午後からは、今度九月に行われる県奉詠大会の出場課題曲を特訓して下さいました。

いろいろと詠唱についてのご注意と、「生老病死」に悩まれた人間お釈迦様が「悟りの人」となられたこと、そのみ教えに導かれて仲の良い暮らしのできる平和のありがたさ等々、有意義な講習となりました。

最後に、ご母堂様に重ねて大好きという観音様のお姿をすらすらと描きながら、坂村真民の詩を朗詠なされました

海と水が相和して同事であるように、一人ひとりの心がおおらかになり、人間関係も互いに尊敬し信じ合って生きていこうとする願いがこの歌の主意となっております。

ただ、同事を人と自然とのつながりの中で語られることが多くなりました。それは環境問題です。

人の行為によると考えられる地球環境の変化です。環境がさらに破壊されていくと、より以上に人同士がいがみ合い、傷つけあってしまう社会になってしまうかも知れません。だから、人と人、人と自然の関係における同事の実践が要求されてきます。

人はさまざまな思いをもって生きていますがさまざまなことに調和し協調していく能力を持っています。それをはぐくみ伝えていくのが梅花流詠讃歌を志す人の使命でもあるのです。

他を利する心

幼い頃にいだかれた　温もり今も忘れない
この世でうけた幸せを　そっとあなたにささげましょう

三番の歌詞は、幼児期を回想し感謝する気持ちから始まりますが、それは幼い児が成長していく過程において、家族や周りの人から多くの恩恵をうけて、愛情ゆたかに育つように

まごころに生きる

作詞・作曲　南　こうせつ

(一)
そよ吹く風に小鳥啼き　川の流れもささやくよ
季節の花はうつりゆき　愛しい人は今いずこ
ほほえみひとつ涙ひとつ　出逢いも別れも抱きしめて
生きてる今を愛して行こう

(二)
広がる海ははてしなく　全ての命はぐくむよ
人の心もおおらかに　互いを敬い信じ合おう
ほほえみひとつ涙ひとつ　出逢いも別れも抱きしめて
生きてる今を愛して行こう

(三)
幼い頃にいだかれた　温もり今も忘れない
この世でうけた幸せを　そっとあなたにささげましょう
ほほえみひとつ涙ひとつ　出逢いも別れも抱きしめて
生きてる今を愛して行こう

と願いをこめた内容と受けとめられます。

一つの社会問題となっている児童虐待などの事件が続発し、育児の仕方を見失った親へ、こどもを抱きしめながら子育てしていく方法を伝えるメッセージがテレビなどの報道機関から発信される時代となりました。

『三つ子の魂百まで』ということわざがあります。幼い頃に受けた深い愛情が、他を利する心への発露となってじみちに展開されることを願い、みずからがその実践を誓う歌詞内容です。

一つひとつの大切さ

ほほえみひとつ涙ひとつ　出逢いも別れも抱きしめて
生きている今を愛して行こう

この繰り返される歌詞には、一・二・三番とそのとらえかたは微妙に異なるでしょうが、ここで重要なのは、ひとつという言葉です。その時その一瞬を生きて、さまざまなことに対応している私たちには、ひとつの行為、行動がいつも基本にあるのです。日頃読誦している「修証義」にも示されるように、「ひとつ」や「いっとき」の最小の単位を重要視していく仏教的立場を見つめておかなければなりません。それが全体に連なっていくからです。

さて、「ほほえみ」とは、相手に好意を示すときや受け容れていくときに表す小さい笑みです。「涙とは、ここでは相手に同調し思いやりの気持ちで流す涙と受けとめられます。他人を思い大切にしていこうとする心の表れとして、「ほほえみ」と「涙」をささげていきたいとする作詞者のやさしく慈愛にみちた気持ちが伝わってきます。

ここの「ほほえみひとつ涙ひとつ」という歌詞は、同事と利他のおこないを続けて、無常の世を生きていこうとする次の言葉につながっていくのです。

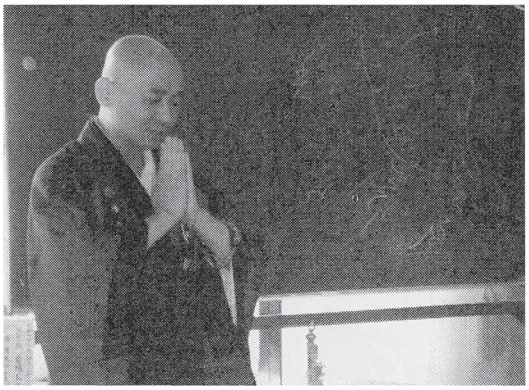
「出逢い」と「別れ」はかずかずの縁によって引き起こる人生の節目を表すと共に、実際の「出逢い」の驚きや不可思議さ、「別れ」のつらさや苦しさです。それぞれを自分のものとして、真っ向から正しく受けとめて行動することを「抱きしめて」と表現しています。

そして、今生きていることの尊さや有り難さを大切にして生きる姿勢を訴えることでしめくくられています。

曲想「明るくおおらかに」は、この曲全体を通して流れるイメージとして受けとめてください。

『二度とない人生だから／一輪の花にも無限の愛をそそいでゆこう／一羽の鳥の声にも無心の耳をかたむけてゆこう……』

生かされて生きていることの幸せ、不思議な巡り合わせによって生まれた因縁の有り難さ、一人一人が大切な自分と自覚して一度きりを生きていかねばならないこと戦争のない平和な日々も、自分自身の問題として常に心に掛けていかねばならない等、現代の世相にも大切な御法話として、梅花講習共々時間の経つのが早いくらいとても充実した一日でした。参加させて頂いて心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



観音様を描いて朗詠する吉川師範

『まごころに生きる』の唱え方と作法について

❶鈴鉦を用いて唱える場合

イ　坐行

①詠題は唱えない。

②詠頭司は、合掌した右手を下げて撞木をかまえ、次に左手で鈴を定位に持った後、教典表記の八拍間に打鉦鳴鈴し、挙唱しはじめる。

詠衆は合掌で待ち、詠頭司の挙唱「そよふく」の「そ」を聞いて、直ちに撞木をかまえ、鈴を定位に持ち「かわのながれ」から唱える。

ロ　立行

『聖号』の作法に準ずる。

❷鈴鉦を用いないで唱える場合

詠頭司は「そよふく」から唱える。拍速は極度に遅くならないように注意する。

梅花のふるさと

父を慕い母を恋う

賽の河原

～詠讃歌の生まれた風景〈その四〉～

地蔵菩薩御和讃

父をば慕い母を恋い
　切なき声にたずねゆく
幼き児らをひきよせて
　つつむ法衣の慈悲の袖

地蔵菩薩御詠歌

たらちねのみ親のもとにいる児らは
　御名を唱うる声ばかりなり

作詞　赤松月船

◇童話『ひかりの素足』◇

作家・宮沢賢治に『ひかりの素足』という童話があります。やさしい兄・一郎、幼い弟・楢夫。二人の兄弟は雪山で炭焼きをしている父のもとを訪れた帰り道、吹雪に遭い倒れてしまいます。二人がたどり着いた死の世界、おそろしい鬼どもが子供たちを責めています。すると、子供たちが泣き悲しんでいるところへ、裸足の白く光る大きな人がまっすぐにやって来るのでした。

「こわいことはないぞ」かすかに笑いながらその人はみんなに云いました。その大きな瞳は青い蓮の花びらのようにりんとみんなを見ました。みんなはどうと云うわけもなく一度に手を合わせました。「こわいことはない。おまえたちの罪はこの世界を包む大きな徳の力にくらべれば太陽の光とあざみのとげのようなもんだ。なんにもこわいことはない」

いつの間にかみんなはその人のまわりに環になって集まって居りました。さっきまであんなに恐ろしく見えた鬼どもがいまはすなおにその大きな手を合わせ首を低くたれてみんなの後ろに立っていたのです。

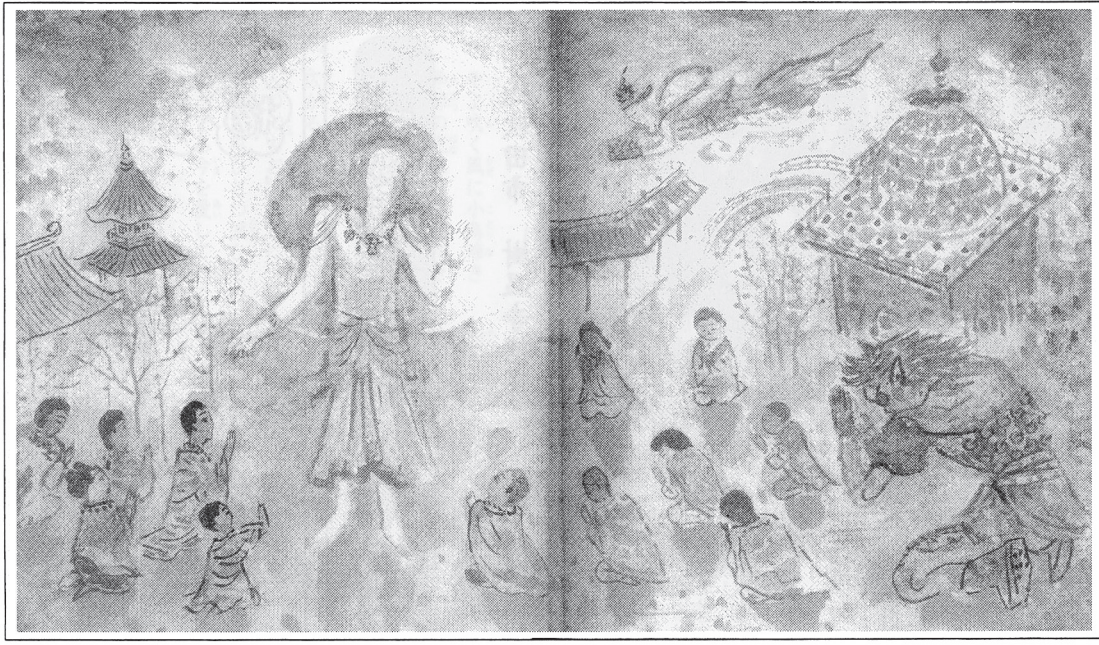
童話の中には、ここがどこであるかも、大きな人がだれであるかもはっきりとは書かれていません。じつはここはあの世の入り口にあるという賽の河原というところ、そして子供たちを助けてくれたのはお地蔵様だったのです。「ひかりの素足」とは子供たちが助けを待ちこがれるお地蔵様の、大きな白く光るおみ足のことだったのです。

◇賽の河原の物語◇

下北半島の恐山をはじめ、死者の魂が帰り行く場所として信仰されている各地の霊場には、賽の河原という場所があります。荒涼として寂しいその場所は、亡くなった子供たちの集うところとして言い伝えられてきました。

この世の縁浅く、死に別れた親達への回向のために小石を積んで供養する子供たち。その塔をこ

【地蔵菩薩】
人々を苦しみや悲しみの淵から救ってくださるお地蔵さま



【童話『ひかりの素足』　宮沢賢治 作】
死の世界へ着いた幼い兄弟は、鬼達の責め苦から足が光る大きな人に救われる。賽の河原伝承を素材に、地蔵菩薩の登場が感動的に描かれる。　絵・太田大八

わそうとやって来る鬼どもから、子供たちを救ってくれるお地蔵様。そんな賽の河原の物語を伝えているご和讃が『賽の河原の地蔵和讃』です。

賽の河原地蔵和讃

これはこの世のことならず　死天の山路の裾野なる
賽の河原のものがたり　聞くにつけても哀れなり
二つや三つや四つ五つ　十にも足らぬみどりごが
賽の河原に集まりて　父恋し　母恋し
恋し恋しと泣く声は　この世の声とはことかわり
悲しさ骨身を徹すなり　かのみどり子の所作として
河原の石を取り集め　これにて回向の塔を積む
一重積んでは父のため　二重積んでは母のため
三重積んでは故郷の　兄弟我が身と回向して
昼は一人で遊べども　陽も入あいのその頃は
地獄の鬼があらわれて　やれ汝らはなにをする
娑婆に残りし父母は　追善作善のつとめなく
ただ明け暮れの嘆きには　むごや悲しやふびんやと
親のなげきは汝らの　苦患を受くる種となる
我を恨むることなかれと　黒がね造りの棒をのべ
積みたる塔を押しくずす
そのとき能化の地蔵尊　ゆるぎ出でさせ給いつつ
汝らいのち短くて　冥途の旅に来たるなり
娑婆と冥途はほど遠し　我を冥途の父母と
思うて明け暮れたのめよと　幼きものをみ衣の
裳裾のうちにかき入れて　憐れみ給うぞありがたき
いまだ歩まぬみどり子を　錫杖の柄に取りつかせ
恐辱慈悲のおん肌に　いだきかかえて撫でさすり
憐れみ給うぞありがたき

◇つつむころもの慈悲の袖◇

梅花流詠讃歌にある地蔵菩薩御和讃の二番と地蔵菩薩御詠歌は、この賽の河原に登場する地蔵菩薩の姿を詠まれたものでした。どこまでも深く子供たちの悲しみに寄り添い、限りなく暖かく抱きかかえる慈悲の袖。抱かれたそのふところでお地蔵様の御名を呼ぶ子供たちの声。地蔵菩薩の詠讃歌には賽の河原の悲しさとお地蔵様の慈しみの心が込められているのです。

【恐山の賽の河原】

青森県恐山の賽の河原には、亡き児へ送る供養の品として、花々とともにおもちゃの赤い風車が供えられてある。

梅花流

講員一泊研修会のおもいで

玉鳳院（能代市）会場　十月二十五・二十六日

北秋田市　樹温寺講員
畠山久子

先生方と共に、初心者コースの面々、前列左から３人目が筆者

先輩の講員さんに「一泊研修に出席してみませんか」と誘われて、初めて参加してみました。

去る十月二十五日、二十六日は晴天に恵まれて、私たち講員四人はお寺さんに車で送って頂きました。不安とドキドキが入り交じっている内に会場の玉鳳院様に着きました。

大きな銀杏の木の横の山門をくぐり、左側の立派な観音様に手を合わせ、会場に入りました。参加者の多いのにはまずびっくりしました。

受付を済ませて日程説明を受け、開講式の後は全体講習での高祖様のご講話を聞くことが出来、まず参加して良かったと思いました。

午後から分科講習、私はもちろん初心者コースですが、先輩の講員さんは詠唱コース、所作作法コースに分かれました。初心者は十名ほどで最初は緊張しておりましたが一時間目、二時間目と講師の先生の丁寧なご指導に徐々に緊張感もほぐれ、楽しく過ぎ、三時間目の講習もあっという間に過ぎてしまったような気がしました。

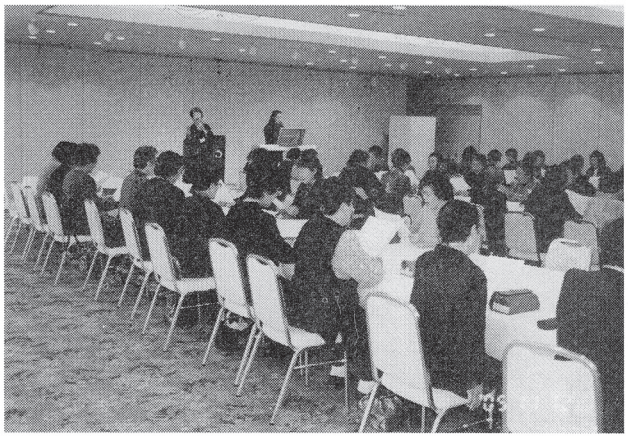
夕食後、萬燈会の説明があり、三宝御和讃をお唱えしながら会場に入り、自分のローソクに灯をともした時は、仏様と自分が一緒になって、吸い込まれていくような気持ちになり、感激と感動で涙が溢れてしまいました。また、柴田先生の素晴らしい法話を聴いたときには、新たに溢れる涙をどうすることもできませんでした。最近、感謝の心が失われていると聞いたことがありますが「腰かけた石を拝んで遍路発つ」の思いこそ大事なんだと身にしみました。「参加して良かった」と感動の連続でした。

二日目は、坐禅と朝のお勤めをし全体講習では太祖様についてのご講話を受けた後、分科講習にて楽しく受けることが出来ました。

各講師先生の熱心なご指導で、二日間ではありましたが、私にとっては初めてであり、感激と感動、そして充実した研修会でした。

まだまだ未熟な私ですが、これからも出来るだけ研修会や講習会に参加し、梅花講員として楽しみながら続けていきたいと思っております。今後ともご指導をお願い致します。

◆県南会場　岩城町　ウェルサンピア



秋田県梅花講の歌、詠唱指導

ちょっとぶじょほう

梅花を通して

梅花つれづれ

第八教区　東源寺徒　森沢宜彰

今年もまた、暑い夏を迎えお盆の季節がやって来ました。お盆は、正月やお彼岸などと同じく、全国的に身近な仏教行事だと思います。

またお盆には七月盆と八月盆があり、地域によって色々と風習等は異なりますが、私の住んでいる秋田では、八月にお盆を迎えます。お盆を迎える前には、御先祖様を迎えするために精霊棚をかざったり、仏壇にお花や供物等をたくさんお供えし、御先祖様をお迎えします。

お盆は盂蘭盆会の略と言われ、その始まりは、お釈迦様の弟子の目蓮尊者が、母親が死後の世界で苦しんでいる姿を見て、その苦しみを救うためにどうすればいいか、お釈迦様に救いを求めたところ、七月十五日に修行する僧侶達に供養をすると、その功徳で母親は苦しみから救われるだろうと説かれ、それが中国に伝わり形を変えて現在の日本のお盆になったと言われます。

さてそのお盆を迎えると、毎年同じことを考えます。私の回りでは、夏休みだとか、お盆休みだとかで、楽しそうな声が、各方面から聞こえてきます。最近では、あきらめなのか、うらやましいと思うこともなくなりました。それどころか私達僧侶にとっては、お盆前のお寺の内外の清掃、墓経、棚経、そして後片づけこのお盆をどう乗り切るかで頭がいっぱいになります。

そしてそのお盆中の棚経の時に、一つ心に残る話しがありました。今年は戦後六十年ということもあり、テレビ等で、その凄惨なまでの当時の状況や、目をおおいたくなるような影像を目にしました。棚経を回っていると、戦争を経験された多くのお年寄りの話を聞く機会がありました。その中で「戦争のことなんてなんも知らねえべ」と聞かれました。実際にテレビ等の情報しかわからないので、そのことを応えました。すると「戦争だけは忘れられねえな」と、時を経て苦しかったこと、恐かったことなど少しずつ記憶が薄れていく、また楽しかったこと、嬉しかったこと等も忘れたくないが少しづつ薄れていく。そんな中、戦争の記憶だけは鮮明に残っていると、また絶対忘れてはいけないことだとも。

そして、今まさに戦後の復興を遂げ、気づいてみると、豊かになりすぎた日本があったと、皮肉な話しだなと笑っていましたが、まさにその通りだと思いました。

地球温暖化、空気汚染、異常気象など、さまざまな情報が流れてくる。そんな中で最近、ニュース、新聞等で「癒し」という言葉をよく目にします。本来、山や海、自然が人々を癒してくれると思いますが、その自然が今、人間に襲いかかってきている。皮肉の一言で尽きるような気がします。

私事ですが、数年前から梅花を学ばせていただいています。最近思うのですが、この梅花、御詠歌にも少なからず「癒し」の効果があるのではないかと思います。御詠歌の歌詞を読み、お唱えをすると、気持ちが落ち着きます。なかなか若い年代の方には受け容れられない現状ではあると思いますが、若い年代の一人として、少しでも力になり、いろいろな人に聞いてもらい、梅花、御詠歌を深めていきたいと感じています。

梅花行事ご案内

◆禅センター・梅花講習日程◆

【僧侶・寺族研修会】

〈午前十時半～午後三時半〉

十月二十四日（火）
講師　岩舘祖芳師範
課題　達磨大師御和讃・廓然

十一月六日（月）
講師　浅田高明師範
課題　釈尊一代記

【檀信徒講習会】

〈午前十時半～午後三時〉

九月八日（金）
講師　三浦賢翁・森澤宣彰師範
課題　達磨大師御和讃・廓然

十月十三日（金）
講師　小野碩瑛・佐藤晃心師範
課題　高祖道元禅師学道御和讃・嘉古

十一月十日（金）
講師　森田英俊・鈴木泰賢師範
課題　開山忌御和讃・真清水

十二月八日（金）
講師　柿崎隆穏・三浦賢翁師範
課題　平和祈念御和讃・戦災精霊供養御和讃

※受講は無料です。昼食持参でお気軽にご参加下さい。
初心者、上級者の二会場にて

◆檀信徒講員一泊研修

◎県北地区(県北梅花二十周年記念研修会)
日時　十一月七日(火)～八日(水)
会場　大館市大滝温泉富士屋ホテル
会費　一万三千円(宿泊懇親会込み)五千円(二日間通い)

◎中央地区
日時　九月二十一日(木)～二十二日(金)
会場　秋田市金足　東泉寺

◎県南地区は今現在、調整中です
※詳細、日程等は決まり次第、各講長さんを通じてご案内致します。

◆秋田県梅花流奉詠大会

日時　九月一日（金）
会場　秋田市「秋田県立武道館」
※昨年と同じく正午から開会となります。既に登壇奉詠曲も練習中だと思いますので、昨年より多数のご参加をお待ちしております。
詳細は後日、お知らせ致します。

■お詫び

先日発行した「梅花流秋田県五十周年記念誌」の中で、昨年の記念大会奉詠写真の〈講名〉説明部分に取り違いがありました事を、心よりお詫び申し上げます。
なお、訂正については各菩提寺へ訂正シールをお送りしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

検定会のお知らせ

18年度 課題曲決定！

平成18年度の秋田県宗務所主催梅花流検定会を下記の日程にて開催致します。平素の練習の成果を発揮する機会ですので、ぜひ受検下さいますようご案内致します。
数多い検定課題曲の中から数曲限定しましたので、ピンポイント学習の上検定に臨んで下さい。

◎県北検定会場（九・十教区）
事務局　新田寺　☎0186－78－4280
９月６日(水)　会場/二ツ井ヘルスセンター

◎県北検定会場（十一・十八教区）
事務局　恩徳寺　☎0186—23—2372
９月12日(水)　会場/姫の湯ホテル

◎県南地区検定会場
事務局　東林寺　☎0184—22—3437
９月12日(水)　会場/由利本荘市・慶祥寺

◎中央・三級検定会場
事務局　宗務所梅花主事　☎018—868—6871
９月28日(木)　会場/秋田市・さとみ温泉

■詠範（寺族）検定課題曲

補　　教　聖号・修証義
詠 範 補　太祖二番梅花・高祖入寂（立行）
五級詠範　無常・観音（立行）
四級詠範　不滅・明星・妙鐘・涅槃・追弔より御詠歌１和讃１（和讃立行）
三級詠範　廓然・慈光・法灯・盂蘭盆・同行・御授戒より御詠歌１和讃１（立行・分節詠唱あり）

■檀信徒検定課題曲

教　　導　三宝・正法
権正教導　聖号・修証義
正 教 導　浄心・紫雲（太祖）
権中教導　太祖一番梅花・高祖誕生（立行）
中 教 導　総持寺一番渓声・高祖菩提（立行）
権大教導　太祖入寂（立行）・無常～月影（連続）
大 教 導　不滅・慈光・慈念・追弔・成道より御詠歌１和讃１出題（和讃立行）
三級教範　妙鐘・法灯・廓然・地蔵・正行・慶祝より御詠歌１和讃１出題（和讃立行）

テレホン梅花

☎０１８７－８７－７６７６（ハナミ ナムナム）

七月
八日　月影
十五日　追弔御和讃
二十二日　報恩供養御和讃
二十九日　澄心

八月
五日　戦災精霊供養御和讃
十二日　迎火
十九日　平和祈念御和讃
二十六日　誓願御和讃

九月
二日　道環
九日　香華
十六日　入寂御和讃（高祖）
二十三日　入寂御和讃（太祖）
三十日　達磨大師御和讃

十月
七日　廓然
十四日　総持寺二祖讃仰御和讃
二十一日　永光（総持寺二祖）
二十八日　誕生御和讃（太祖）

十一月
五日　菩提（太祖）
十二日　法灯（太祖）
十九日　太祖影向・伝光
二十六日　梅花（太祖一）

※ご意見、ご要望等お気軽にお寄せ下さい。

〒０１０－００１１
秋田市金足岩瀬字前山三
東泉寺（０１８－８７３－２６７５）